

ダムの放流で水害が起きている？

洪水を調節する役割を持つダムは、ダムの上流から流れてくる水の量を調節し、下流へ流す水の量を減らして、下流の河川の水位が上がるのをおさえています。

([グループ2を参照](#))



洪水をため込むダム(平成25年9月台風18号)

写真: [天ヶ瀬\(あまがせ\)ダム](#) (所在地: 京都府)

ダムが流木やゴミを流している？

ダムは流れてきた倒木やゴミをキャッチして、増水時などに下流へ流れるのを防ぎ、流木が橋を壊したりすることを防いでいます。また、それらの流木などを、ダムでまとまった形で回収できるようになっています。



※ダムのさらに下流から流れ出たゴミが、海岸に到達することがあります。



流木をため込むダム(平成27年9月関東・東北豪雨)

写真: [五十里\(いかり\)ダム](#) (所在地: 栃木県)

ダムは壊れる？

ダムは貯めた水の水圧に耐えられる頑丈なつくりをしています。設計上、他の構造物よりも高い基準で設計されていますので、簡単には壊れません。

すぐに砂で埋まってしまう？

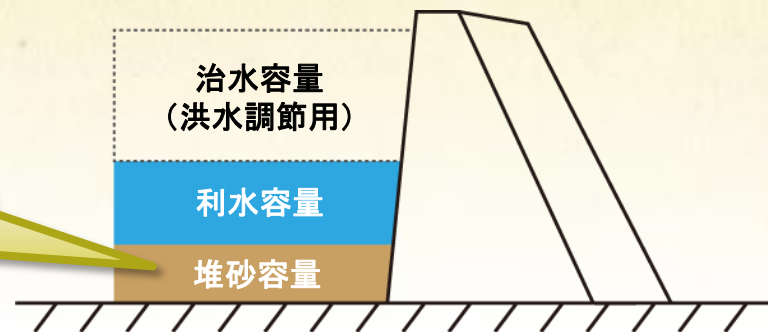
ダムには土砂も流入するので、徐々に土砂がたまっていきますが(堆砂^{たいさ})、それを見込んでダムは設計されています。

堆砂^{たいさ}のペースはダムによって様々ですが、平均的には計画通りです。

さらに、堆砂の対策※(次頁参照)を行うことにより、その進行を遅らせる工夫もしています。

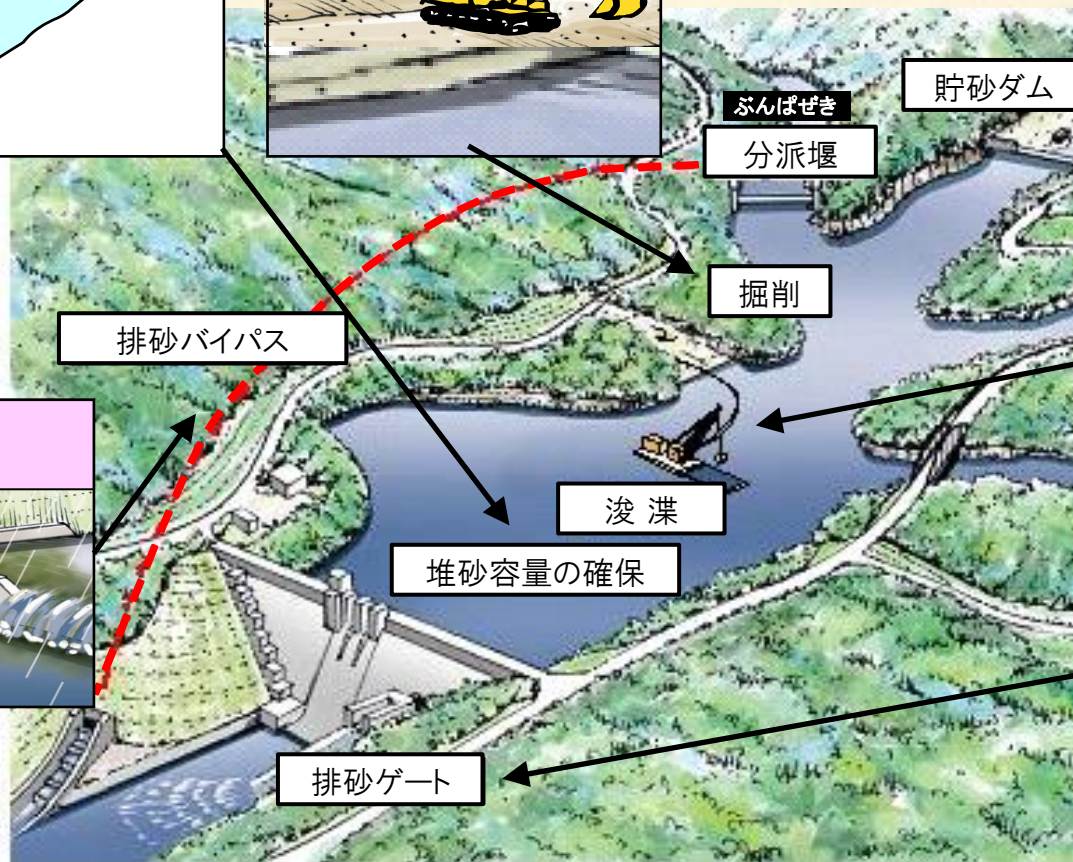
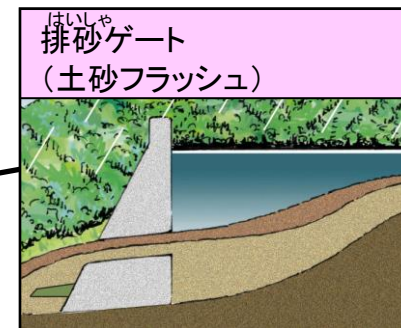
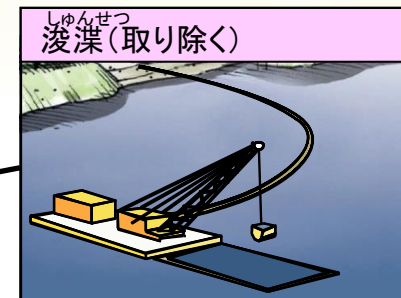
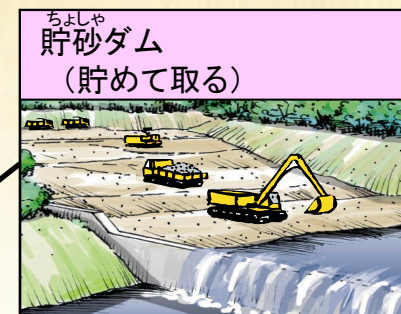
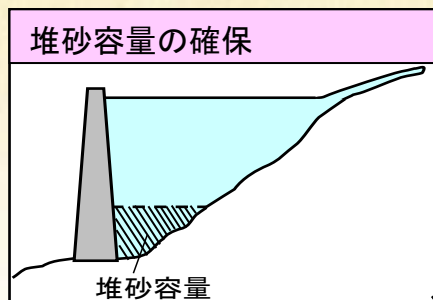
多目的ダムの容量設定の例

この部分がどれだけ
たまったかが堆砂率



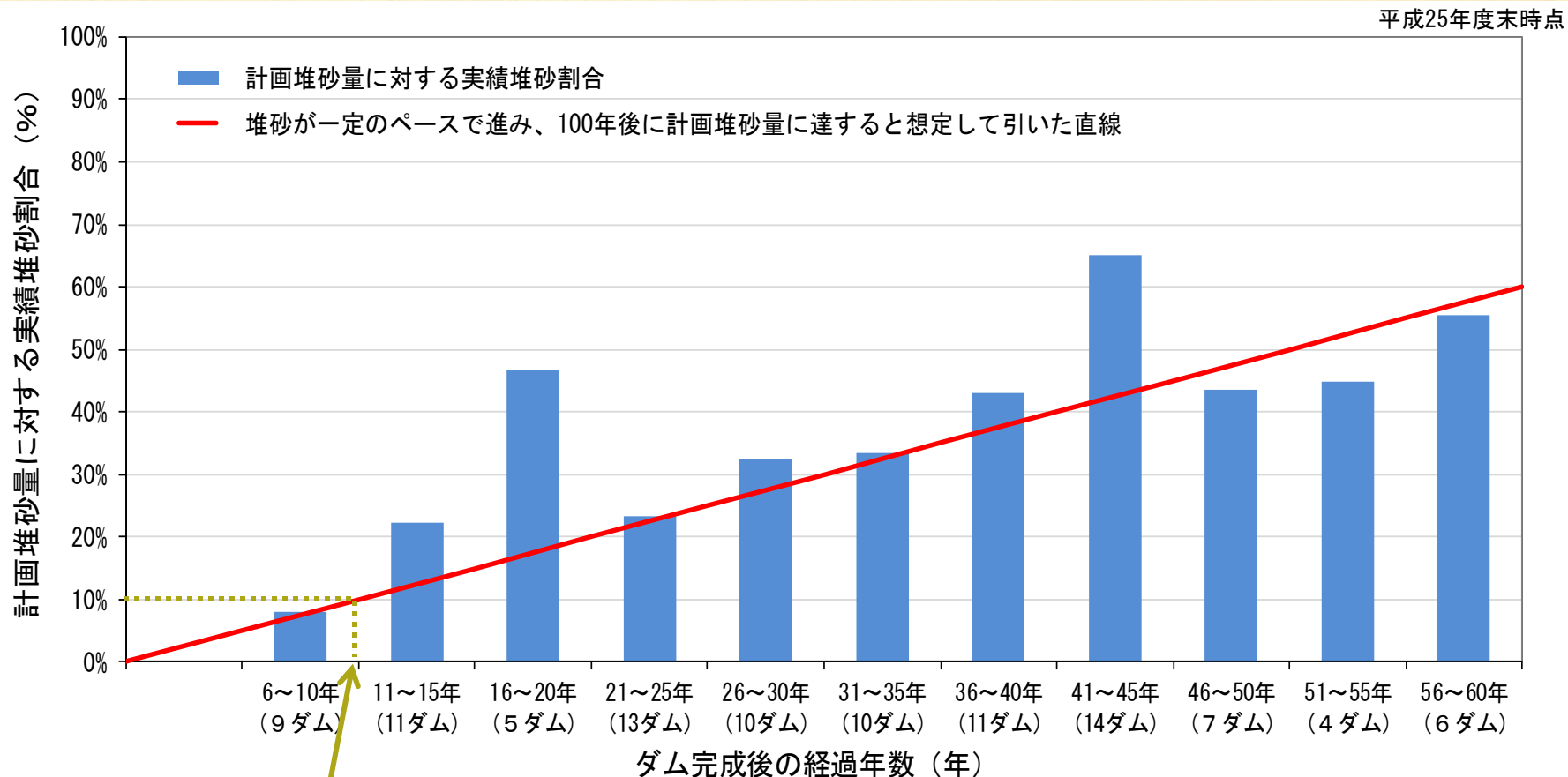
※ダムには「堆砂容量」が設定してあり、堆砂が進んでどのくらいたまったかというのは、この堆砂容量のうち、どのくらいがたまったのかという意味です。したがって、堆砂率が100%になっても、洪水調節やダムにためた水を使うことに影響はありません。

たいさ 堆砂の対策



堆砂の進むスピード

全体としては概ね計画どおりで進んでいます。



(注1) 国土交通省及び(独)水資源機構が管理する完成後6年以上経過したダムを集計(合計100ダム)
 (注2) 計画堆砂年が100年以外の9ダム、及び桂沢ダムへの導水を目的として設けられた芦別ダムは上記集計の対象外

ダム完成後~10年たつと、堆砂容量(p.2)のうち、10%程度が堆砂するという意味です。